

資料4

(2省合同会議資料)

中規模非住宅建築物の省エネ基準の見直しについて

1. 基準値見直しの水準案について

中規模非住宅建築物に係る省エネ基準の引き上げ(案)

見直し後の基準案

- 2030年度以降新築される建築物についてZEH・ZEB基準の水準の省エネ性能を確保するとの政府方針を踏まえ、**中規模非住宅建築物の省エネ基準について、2026年度より省エネ性能の水準の引き上げを行う。**

(参考)「脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策等のあり方・進め方」(令和3年8月)

2026年度 中規模建築物に係る省エネ基準の引き上げ BEI=0.8程度

- 先行する**大規模の省エネ基準を踏まえ、制度の分かりやすさの観点から大規模基準と同一とし、各用途の適合状況を踏まえて、用途に応じてBEI=0.75~0.85の間で水準を設定する(下表)。**

【現行(2024年度時点)の水準】

用途・規模		一次エネ (BEI) の水準
大規模 (2,000㎡以上)	工場等	0.75 ^{※1}
	事務所等、学校等、ホテル等、百貨店等	0.80 ^{※1}
	病院等、集会所等、飲食店等	0.85 ^{※1}
中規模 (300㎡以上 2,000㎡未満)		1.00 ^{※1}
小規模 (300㎡未満)		1.00 ^{※1}

【2026年度の水準案(赤字部分)】

用途・規模		一次エネ (BEI) の水準
大規模 ^{※3} (2,000㎡以上)	工場等	0.75 ^{※1}
	事務所等、学校等、ホテル等、百貨店等	0.80 ^{※1}
	病院等、集会所等、飲食店等	0.85 ^{※1}
中規模 ^{※3} (300㎡以上 2,000㎡未満)	工場等	0.75 ^{※1}
	事務所等、学校等、ホテル等、百貨店等	0.80 ^{※1}
	病院等、集会所等、飲食店等	0.85 ^{※1}
小規模 (300㎡未満)		1.00 ^{※1}

【遅くとも2030年度までに目指す水準】

(エネルギー基本計画等)

用途・規模		一次エネ (BEI) の水準
大規模 (2,000㎡以上)	事務所等、学校等、工場等	0.60 ^{※2}
	病院等、集会所等、ホテル等、百貨店等、飲食店等	0.70 ^{※2}
	事務所等、学校等、工場等	0.60 ^{※2}
中規模 (300㎡以上 2,000㎡未満)	病院等、集会所等、ホテル等、百貨店等、飲食店等	0.70 ^{※2}
	事務所等、学校等、工場等	0.60 ^{※2}
小規模 (300㎡未満)		0.80 ^{※2}

※1 太陽光発電設備及びコージェネレーション設備の発電量のうち自家消費分を含む。

※2 コージェネレーション設備の発電量のうち自家消費分を含む。

※3 増改築については、改正法の全面施行以降(R7.4~)、増改築部分の面積の規模に応じて該当する規模の水準を適用。

見直し案への適合状況について

- 中規模非住宅建築物の用途別BEI累積度数分布より、**BEIの適合状況**は、次のとおり。（全体像は次ページ参照。）
 - ・ 工場等の**BEI ≤ 0.75**への適合率は7割程度
 - ・ 事務所等、学校等、ホテル等、百貨店等の**BEI ≤ 0.8**への適合率は6～8割程度
 - ・ 病院等、集会所等、飲食店等の**BEI ≤ 0.85**への適合率は5～6割程度

BEI 累積 割合	中規模建築物(2026基準引上げ) ※H30-R4(5年分)データから算定			【参考】大規模建築物(2024基準引上げ) ※H30-R2(3年分)データから算定 (大規模引上げ時の小委資料の根拠)		
	0.75以下	0.80以下	0.85以下	0.75以下	0.80以下	0.85以下
事務所等	62.5%	76.7%	85.7%	54.5%	69.3%	85.2%
病院等	21.1%	37.7%	→ 57.0%	16.0%	32.8%	→ 56.1%
学校等	69.4%	82.7%	90.8%	56.3%	76.9%	87.7%
集会所等	23.0%	39.5%	→ 61.3%	9.6%	22.2%	→ 40.7%
ホテル等	49.6%	67.0%	79.1%	46.0%	65.4%	78.8%
百貨店等	39.1%	60.3%	77.3%	56.0%	77.5%	94.1%
飲食店等	23.7%	34.5%	→ 49.7%	20.0%	20.0%	→ 40.0%
工場等	← 69.4%	77.5%	84.0%	← 87.0%	90.8%	92.5%

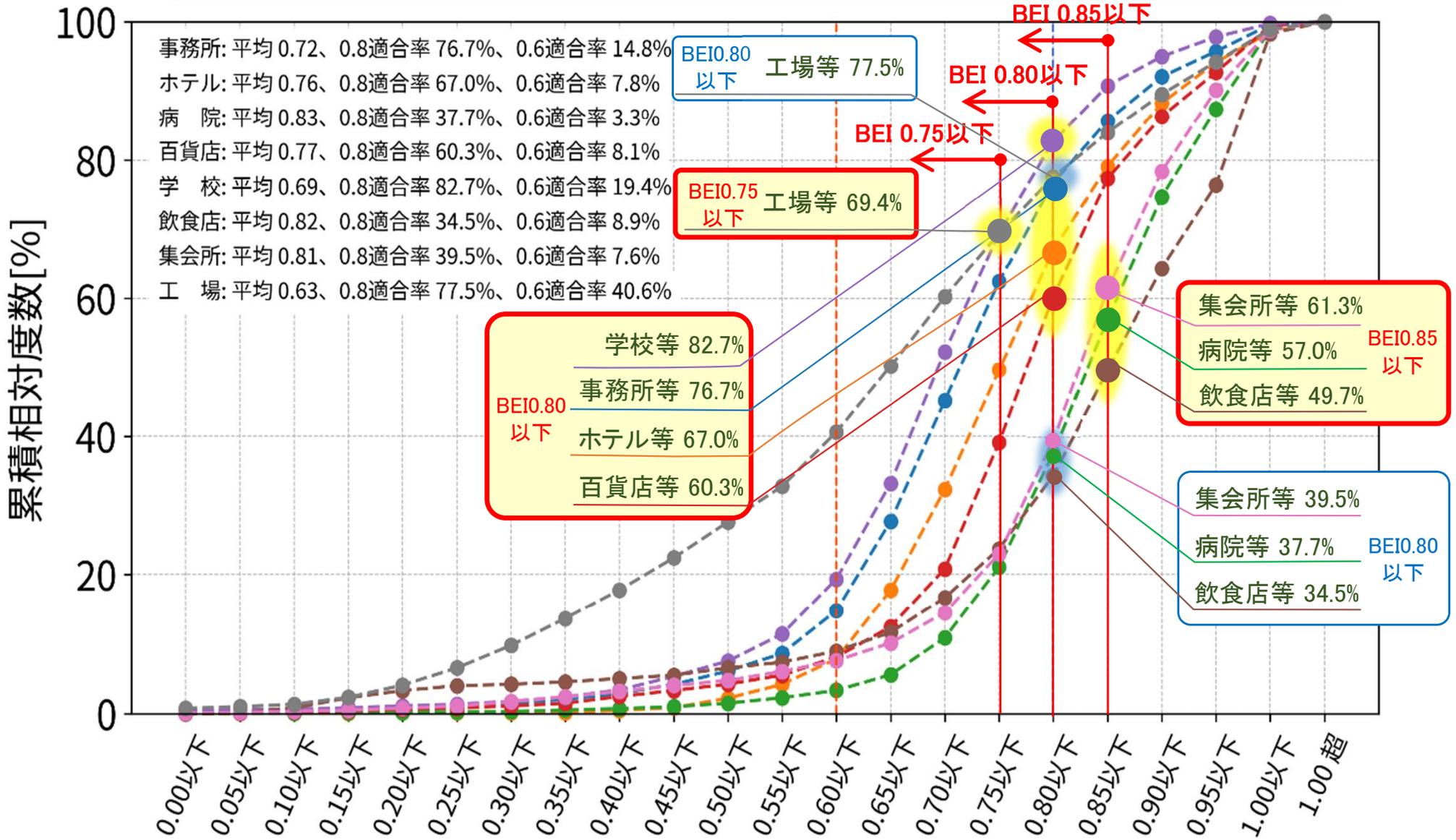
※H30～R2年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による。
(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、複数用途は代表用途(面積最大)で集計)。

※H30～R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による。
(全地域、新築、2,000㎡以上、単一用途のみ集計(複数用途は除外))。

現状における中規模非住宅建築物のBEI累積度数分布

n = 42,120

- 事務所(n=11410)
- 病院(n=6730)
- 学校(n=5284)
- 集会所(n=2382)
- ホテル(n=1404)
- 百貨店(n=6648)
- 飲食店(n=1453)
- 工場(n=6809)



※H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、複数用途は代表用途(面積最大)で集計)。

2. 引上げ水準(案)を達成するための措置例について

各設備の一次エネルギー算出方法と省エネ化のポイント

 : 負荷削減
 : サイズダウン
 : 高効率化
 : 省エネ制御

$$\text{空調E} = \text{熱源E} + \text{ポンプE} + \text{空調機E}$$

建築計画の工夫、外皮性能向上、外気冷房の採用等

$$\text{熱源E} = \text{空調熱負荷} / \left(\text{定格効率} \times \text{補正係数} \right)$$

熱源の高効率化

補正係数は 負荷率 (= $\frac{\text{空調熱負荷}}{\text{定格能力}}$) の関数

サイズダウン(内部発熱等の設計条件の見直し、設計余裕度低減、外皮性能向上、全熱交換器導入)

台数制御の採用

$$\text{ポンプE} = \text{定格消費電力} \times \text{台数} \times \text{運転時間} \times \text{省エネ制御効果率} \times f_{pri}$$

サイズダウン(設計流量の低減、配管圧力損失の最小化)

変流量制御の採用

$$\text{空調機E} = \text{定格消費電力} \times \text{台数} \times \text{運転時間} \times \text{省エネ制御効果率} \times f_{pri}$$

サイズダウン(設計風量の低減、ダクト長低減、ダクト径拡大)

変風量制御の採用

換気方式の変更

$$\text{換気E} = \text{送風機定格消費電力} \times \text{台数} \times \text{運転時間} \times \text{省エネ制御効果率} \times f_{pri}$$

サイズダウン(換気風量の低減、ダクト長低減、ダクト径拡大)

高効率モーター、インバータ、風量制御の採用

光源・器具の高効率化(LED標準型→LED高効率型)

$$\text{照明E} = \text{照明器具定格消費電力} \times \text{台数} \times \text{運転時間} \times \text{省エネ制御効果率} \times f_{pri}$$

台数削減(設計照度の低減、器具配置の最適化)

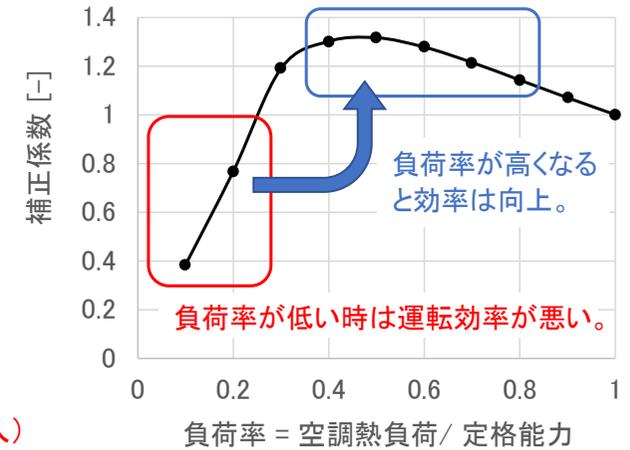
明るさ検知制御、人感検知制御等の採用

節湯器具の採用、配管保温向上、太陽熱利用

$$\text{給湯E} = \left(\text{給湯加熱負荷} / \text{定格効率} \right) \times \text{台数}$$

熱源機種の高効率化(ボイラ→ヒートポンプ)

熱源機種毎に定められている特性曲線



f_{pri} : 電力の一次エネルギー換算係数

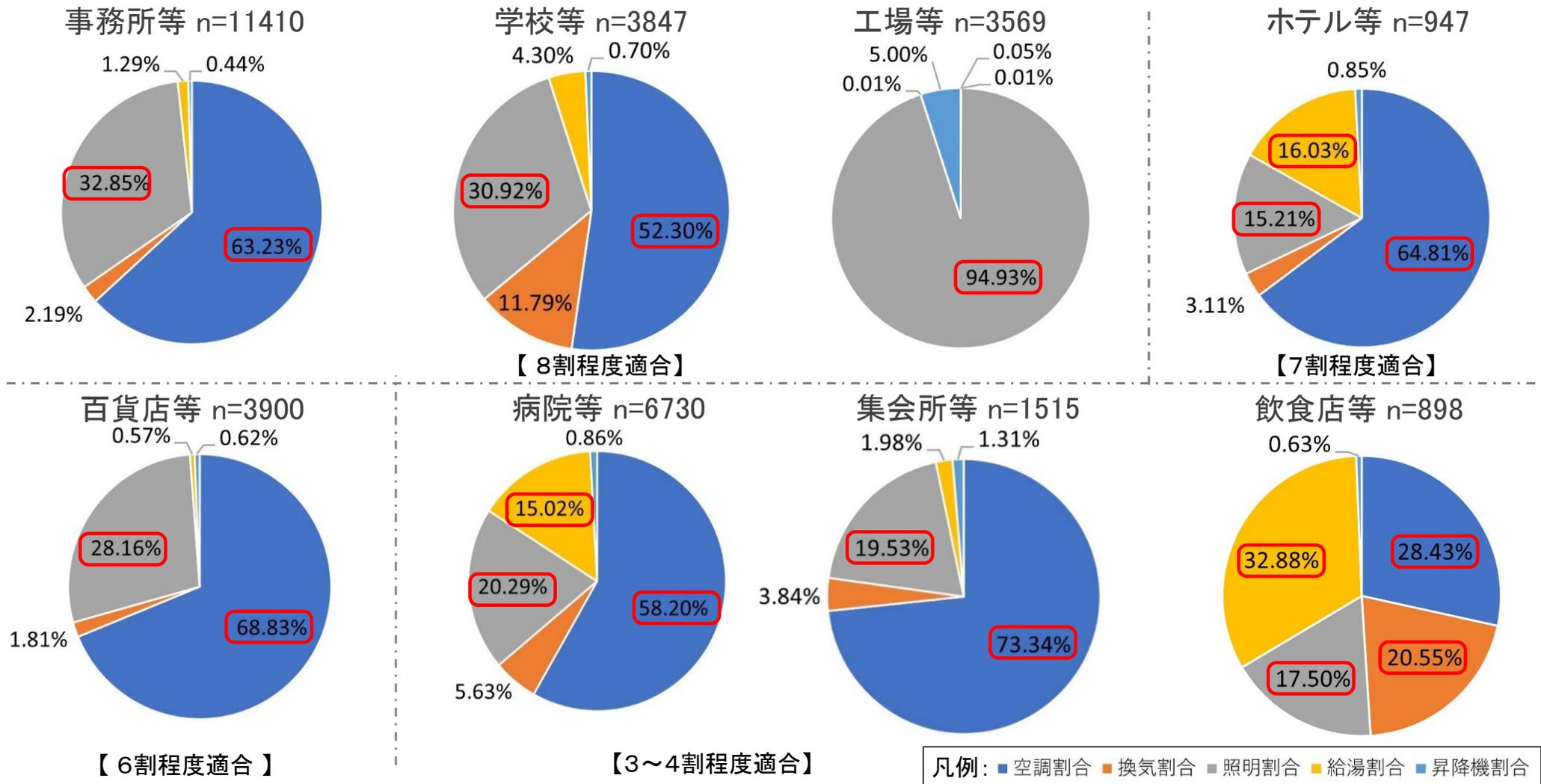
 : 基準引上げ後のBEI達成に寄与するかを検証した項目

外皮・設計仕様の差異の分析方法

- 各用途について、現行基準レベル（ $BEI \div 1.0$ ）と引上げ後の基準レベル（用途に応じて $BEI \div 0.75$ or 0.80 or 0.85 ）で 外皮・設備設計仕様がどのように異なるかを分析
- 次のBEIによる抽出条件
 - ・現行基準レベル：全用途（ $BEIm \div 1.0$ ）： $0.95 \leq BEIm \leq 1.00$
※サンプル数を確保するため、一部用途・一部地域において、 $0.90 \leq BEIm \leq 1.00$ としている
 - ・引上げ後の基準レベル①：工場等（ $BEIm \div 0.75$ ）： $0.70 \leq BEIm \leq 0.75$
 - ・引上げ後の基準レベル②：事務所等、学校等、ホテル等、百貨店等（ $BEIm \div 0.80$ ）： $0.75 \leq BEIm \leq 0.80$
 - ・引上げ後の基準レベル③：病院等、集会所等、飲食店等（ $BEIm \div 0.85$ ）： $0.80 \leq BEIm \leq 0.85$
- 使用するデータ
 - H30～R4年度の届出・適判データ, 評価手法：モデル建物法（簡易評価法）
 - 計算対象面積：300㎡以上2000㎡未満、地域区分：2, 6, 8地域
 - 工事区分：新築、建物用途別データ（単一用途。評価対象がEVのみのものを除く。）
- 設計仕様の比較手順
 - ① H30-R4の実績（全数）から、各設備の一次エネルギー消費量の平均値を算出し、割合を算出。影響の大きい設備を特定。
 - ② H30-R4の実績（該当するBEI帯）から、現行基準レベル及び引上げ後の基準レベルのそれぞれで、平均設計仕様を算出。
 - ③ ①で特定された設備の平均設計仕様を比較。差が大きい仕様を特定。
 - ④ 現行基準レベルの設計仕様から③で特定された設計仕様に変更して $BEIm$ が 0.75 or 0.80 or 0.85 付近になることを確認。 $BEIm$ が 0.75 or 0.80 or 0.85 付近にならない場合は、仕様を一部変更して③を再度実施。
 - ⑤ 引上げ後の基準レベルに適合する仕様について、設備設計実務者の関係団体にヒアリングし、仕様設定の妥当性について確認。

分析① 各用途における設備別エネルギー消費量の割合

- エネルギー消費量に与える影響が大きい設備を特定するために、各設備によるエネルギー消費量の割合を分析。
- 工場等を除くと、全用途において空調設備及び照明設備の割合が高い。
- BEI ≤ 0.8の適合率が低い病院等・飲食店等では、給湯設備及び換気設備の割合も高い傾向が見られる。



※「事務所等」とは、事務所、官公署など 「ホテル等」とは、ホテル、旅館など 「病院等」とは、病院、老人ホーム、福祉ホームなど 「百貨店等」とは、百貨店、マーケットなど(物販店舗等)
 「学校等」とは、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校など 「飲食店等」とは、飲食店、食堂、喫茶店、キャバレーなど
 「集会所等」とは、図書館、博物館、体育館、公会堂、集会場、ポーリング場、アスレチック場、スケート場、公衆浴場、競馬場又は競輪場、社寺、映画館、カラオケボックス、ぱちんこ屋など
 ※工場は照明と昇降機(EV)のみが計算対象。
 ※H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)より、設備別の設計一次エネルギー消費量を平均し、設備毎の割合を算出。

分析②_平均設計仕様の算出 (事務所等・6地域の例)

○ モデル建物法に入力された外皮・設備設計仕様について、平均値・最頻仕様から仕様を特定。

事務所等の例。現行基準レベル(n=345, 平均BEIm=0.98)、引上げ後の基準レベル(n=1262, 平均BEIm=0.77)

モデル建物法の入力・出力 (事務所_6地域)		BEIm ≧ 1.0		BEIm ≧ 0.8		
		物件数	値	物件数	値	
計算結果	BEIm	345	0.98	1262	0.77	
	BPIIm	265	0.76	1259	0.73	
	BEImAC	211	1.01	1258	0.86	
	BEImV	88	0.74	330	0.61	
	BEImL	195	0.85	1237	0.57	
	BEImHW	121	2.34	837	2.05	
	BEImEV	210	1	535	1	
基本情報	C2 省エネルギー基準地区区分	345	6	1262	6	
	C3 計算対象建物用途	345	Office	1262	Office	
	C4 計算対象用途 (集会所等のみ)	0	0	0	0	
	C5 計算対象面積	345	685.31	1262	714.77	
	全体	PAL0 外皮の評価	265	TRUE	1260	TRUE
建物形状	PAL1 階数	265	3.18	1260	2.81	
	PAL2 各階の階高の合計	265	11.45	1259	10.3	
	PAL3 建物の外周長さ	265	81.43	1260	78.95	
	PAL4 非空調コア部の外周長さ	212	26.61	1121	18.61	
	PAL5 非空調コア部の方位	64	N	325	N	
外壁性能	PAL6 外壁面積-北	263	141.83	1239	134.52	
	PAL7 外壁面積-東	264	145.16	1248	130.61	
	PAL8 外壁面積-南	264	143.52	1246	130.87	
	PAL9 外壁面積-西	262	142.38	1245	133.06	
	PAL10 屋根面積	260	304.35	1228	334.88	
	PAL11 外気に接する床の面積	136	49.9	603	54.18	
	PAL12 外壁の平均熱貫流率	265	1.15	1260	0.94	
	PAL13 屋根の平均熱貫流率	260	0.71	1228	0.54	
	PAL14 外気に接する床の面積の平均熱貫流率	136	1.58	603	1.41	
	PAL15 窓面積-外壁面(北)	255	43.39	1202	33.13	
窓性能	PAL16 窓面積-外壁面(東)	253	38.97	1201	31	
	PAL17 窓面積-外壁面(南)	252	42.16	1212	35.78	
	PAL18 窓面積-外壁面(西)	250	39.7	1203	28.18	
	PAL19 窓面積-屋根面	14	9.02	49	5.32	
	PAL20 外壁面に設置される窓の平均熱貫流率	265	4.55	1259	4.45	
	PAL21 外壁面に設置される窓の平均日射熱取得率	265	0.51	1257	0.51	
	PAL22 屋根面に設置される窓の平均熱貫流率	14	4.77	49	4.71	
	PAL23 屋根面に設置される窓の平均日射熱取得率	14	0.57	49	0.57	
	全体	AC0 空調設備の評価	208	TRUE	1253	TRUE
	熱源	AC1 主たる熱源機種 (冷房)	181	PackagedAirConditioner_AirSource	1145	PackagedAirConditioner_AirSource
AC2 個別熱源比率 (冷房)		207	0.98	1251	1	
AC4 床面積あたりの熱源容量 (冷房)		207	320.68	1248	249	
AC6 熱源効率 (冷房、一次エネルギー換算)		203	1.18	1249	1.23	
AC7 主たる熱源機種 (暖房)		181	PackagedAirConditioner_AirSource	1144	PackagedAirConditioner_AirSource	
AC8 個別熱源比率 (暖房)		207	0.98	1252	0.99	
AC10 床面積あたりの熱源容量 (暖房)		207	359.09	1249	280.35	
AC12 熱源効率 (暖房、一次エネルギー換算)		203	1.34	1250	1.39	
外気処理	AC13 全熱交換器の有無	179	FALSE	1092	FALSE	
	AC14 全熱交換効率	14	65To70	108	65To70	
	AC15 自動換気切替機能	24	FALSE	108	FALSE	
	AC16 予熱時外気取入れ停止の有無	207	FALSE	1231	FALSE	
	AC17 二次ポンプの変流量制御	207	FALSE	1257	FALSE	
	AC18 空調機の変流量制御	207	FALSE	1256	FALSE	

設備	項目	値	最頻値	平均値	最頻値	
機械室	V2 換気方式	14	Type1	27	Type2OrType3	
	V4 単位送風量あたりの電動機出力	19	0.29	41	0.21	
	V5 高効率電動機の有無	19	Standard	43	Standard	
	V6 送風量制御の有無	21	FALSE	44	FALSE	
	V7 計算対象床面積	0	0	0	0	
	便所	V2 換気方式	71	Type2OrType3	266	Type2OrType3
		V4 単位送風量あたりの電動機出力	68	0.15	264	0.13
V5 高効率電動機の有無		70	Standard	268	Standard	
V6 送風量制御の有無		72	FALSE	272	FALSE	
V7 計算対象床面積		0	0	0	0	
駐車場		V2 換気方式	4	Type2OrType3	4	Type2OrType3
		V4 単位送風量あたりの電動機出力	5	0.16	7	0.17
	V5 高効率電動機の有無	5	Standard	7	Standard	
	V6 送風量制御の有無	5	FALSE	7	FALSE	
	V7 計算対象床面積	5	90.61	7	134.91	
	厨房	V2 換気方式	13	Type2OrType3	59	Type2OrType3
		V4 単位送風量あたりの電動機出力	17	0.35	86	0.22
V5 高効率電動機の有無		15	Standard	80	Standard	
V6 送風量制御の有無		17	FALSE	85	FALSE	
照明		L3 照明器具の単位床面積あたりの消費電力	187	12.23	1180	7.9
		L4 在室検知制御	195	FALSE	1236	FALSE
		L5 明るさ検知制御	190	FALSE	1217	FALSE
	L6 タイムスケジュール制御	195	FALSE	1235	FALSE	
	L7 初期照度補正機能	194	FALSE	1233	FALSE	
	手洗い	HW2 節湯効率 (一次エネルギー換算)	74	0.92	671	0.97
		HW4 配管保温仕様	74	None	520	None
HW5 節湯器具		64	None	508	None	
浴室		HW3 熱源効率 (一次エネルギー換算)	32	0.78	303	0.8
		HW4 配管保温仕様	20	Level2OrLevel3	149	None
	HW5 節湯器具	28	None	290	None	
	厨房	HW3 熱源効率 (一次エネルギー換算)	33	0.61	154	0.71
		HW4 配管保温仕様	17	Level2OrLevel3	77	Level2OrLevel3
HW5 節湯器具		34	None	155	None	
昇降機		EV1 昇降機の有無	210	TRUE	727	FALSE
		EV2 速度制御方式 (制御方式)	210	VVVF	531	VVVF
	EV3 速度制御方式 (回生の有無)	207	FALSE	508	FALSE	

※ 性能値(熱貫流率など)については平均値を算出
 ※ 選択項目(熱源機種など)については最頻値を算出

○ 差異のあった仕様を比較し、差の大きい仕様を特定。

事務所等の例: 外皮と空調設備、照明設備の設計仕様を比較

モデル建物法の入力・出力 (事務所_6地域)				BEIm ≒ 1.0		BEIm ≒ 0.8		
				物件数	値	物件数	値	
外皮	外壁性能	PAL6	外壁面積-北	263	141.83	1239	134.52	
		PAL7	外壁面積-東	264	145.16	1248	130.61	
		PAL8	外壁面積-南	264	143.52	1246	130.87	
		PAL9	外壁面積-西	262	142.38	1245	133.06	
		PAL10	屋根面積	260	304.35	1228	334.88	
		PAL11	外気に接する床の面積	136	49.9	603	54.18	
		PAL12	外壁の平均熱貫流率	265	1.15	1260	0.94	
		PAL13	屋根の平均熱貫流率	260	0.71	1228	0.54	
		PAL14	外気に接する床の面積の平均熱貫流率	136	1.58	603	1.41	
		空調	全体	AC0	空調調和設備の評価	208	TRUE	1253
熱源	AC1		主たる熱源機種 (冷房)	181	PackagedAirConditioner_AirSource	1145	PackagedAirConditioner_AirSource	
	AC2		個別熱源比率 (冷房)	207	0.98	1251	1	
	AC4		床面積あたりの熱源容量 (冷房)	207	320.68	1248	249	
	AC6		熱源効率 (冷房、一次エネルギー換算)	203	1.18	1249	1.23	
	AC7		主たる熱源機種 (暖房)	181	PackagedAirConditioner_AirSource	1144	PackagedAirConditioner_AirSource	
	AC8		個別熱源比率 (暖房)	207	0.98	1252	0.99	
	AC10		床面積あたりの熱源容量 (暖房)	207	359.09	1249	280.35	
	AC12		熱源効率 (暖房、一次エネルギー換算)	203	1.34	1250	1.39	
外気処理	AC13		全熱交換器の有無	179	FALSE	1092	FALSE	
	AC14		全熱交換効率	14	65To70	108	65To70	
	AC15		自動換気切替機能	24	FALSE	108	FALSE	
	AC16		予熱時外気取入れ停止の有無	207	FALSE	1231	FALSE	
搬送制御	AC17		二次ポンプの変流量制御	207	FALSE	1257	FALSE	
	AC18		空調機の変风量制御	207	FALSE	1256	FALSE	
照明	事務室		L3	照明器具の単位床面積あたりの消費電力	187	12.23	1180	7.9
			L4	在室検知制御	195	FALSE	1236	FALSE
			L5	明るさ検知制御	190	FALSE	1217	FALSE
		L6	タイムスケジュール制御	195	FALSE	1235	FALSE	
		L7	初期照度補正機能	194	FALSE	1233	FALSE	

分析③_用途別の仕様の比較と検証の結果-1

- 前々・前ページと同様の作業(差異のある仕様の特定)を、2・6・8地域毎に全用途区分で実施(下表)。
- 各用途・細用途別の仕様差項目を整理

	2地域(寒冷地)	6地域(温暖地)	8地域(蒸暑地)
事務所等	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根の平均熱貫流率 ・空調熱源能力(冷房) ・空調熱源能力・効率(暖房) ・照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根・外気に接する床の平均熱貫流率 ・空調熱源能力・効率(冷房・暖房) ・照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓の平均熱貫流率 ・空調熱源機種・効率(冷房) ・空調熱源機種(暖房) ・照明器具消費電力
病院等 (総合病院・クリニック ・福祉施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根の平均熱貫流率 ・空調熱源機種・能力・効率(冷房・暖房) ・照明器具消費電力 ・給湯熱源効率 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 ・空調熱源機種・能力・効率(冷房) ・空調熱源能力・効率(暖房) ・照明器具消費電力 ・給湯熱源効率・配管保温仕様 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓の平均熱貫流率 ・空調熱源機種・能力・効率(冷房) ・空調熱源能力・効率(暖房) ・照明器具消費電力 ・給湯熱源効率
学校等 (学校・幼稚園 ・大学・講堂)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根・窓の平均熱貫流率 ・窓の平均日射熱取得率 ・空調熱源能力(冷房) ・空調熱源能力・効率(暖房) ・照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 ・窓の平均日射熱取得率 ・空調熱源能力・効率(冷房・暖房) ・換気電動機出力 ・照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・窓の平均熱貫流率 ・窓の平均日射熱取得率 ・空調熱源能力・効率(冷房) ・空調熱源効率(暖房) ・照明器具消費電力
集会場等 (体育館ほか)	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 ・空調熱源能力・効率(冷房) ・空調熱源効率(暖房) ・照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓の平均熱貫流率 ・空調熱源能力・効率(冷房・暖房) ・照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根・窓の平均熱貫流率 ・窓の平均日射熱取得率 ・空調熱源能力・効率(冷房・暖房) ・照明器具消費電力
ホテル等 (ビジネスホテル ・シティホテル)	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 ・窓の平均日射熱取得率 ・空調熱源機種・能力・効率(冷房・暖房) ・照明器具消費電力 ・給湯熱源効率・配管保温仕様 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 ・窓の平均日射熱取得率 ・空調熱源機種・能力・効率(冷房・暖房) ・照明器具消費電力 ・給湯熱源効率 	<ul style="list-style-type: none"> ・空調熱源能力(冷房・暖房) ・照明器具消費電力 ・給湯熱源効率

分析③_用途別の仕様の比較と検証の結果-2

	2地域(寒冷地)	6地域(温暖地)	8地域(蒸暑地)
百貨店等 (大規模物販 ・小規模物販)	<ul style="list-style-type: none"> 外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 窓の平均日射熱取得率 空調熱源能力・効率(冷房・暖房) 照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> 外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 窓の平均日射熱取得率 空調熱源能力・効率(冷房・暖房) 照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> 窓の平均熱貫流率 窓の平均日射熱取得率 空調熱源能力・効率(冷房) 空調熱源効率(暖房) 照明器具消費電力
飲食店等	<ul style="list-style-type: none"> 外壁・屋根の平均熱貫流率 空調熱源能力・効率(冷房・暖房) 換気電動機出力 照明器具消費電力 給湯熱源効率 	<ul style="list-style-type: none"> 外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 窓の平均日射取得率 空調熱源能力・効率(冷房・暖房) 換気方式・電動機出力 照明器具消費電力 給湯熱源効率・配管保温仕様 	<ul style="list-style-type: none"> 外壁・屋根・窓の平均熱貫流率 窓の平均日射取得率 空調熱源能力・効率(冷房) 空調熱源能力(暖房) 換気方式・電動機出力 照明器具消費電力 給湯配管保温仕様
工場等	<ul style="list-style-type: none"> 照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> 照明器具消費電力 	<ul style="list-style-type: none"> 照明器具消費電力

考察
仕様検討方針

○ 概ね全ての用途・地域において、外皮(外壁・屋根・外気に接する床、窓)の仕様に差異※が見られた。

※大規模に比べて外皮面積及び内部発熱量が小さくなった一方、ペリメーター部分が全体に占める割合は高くなるため、空調負荷に占める内部発熱量の影響が相対的に小さくなり、外皮が空調負荷に与える影響が顕在化した、と考えられる。

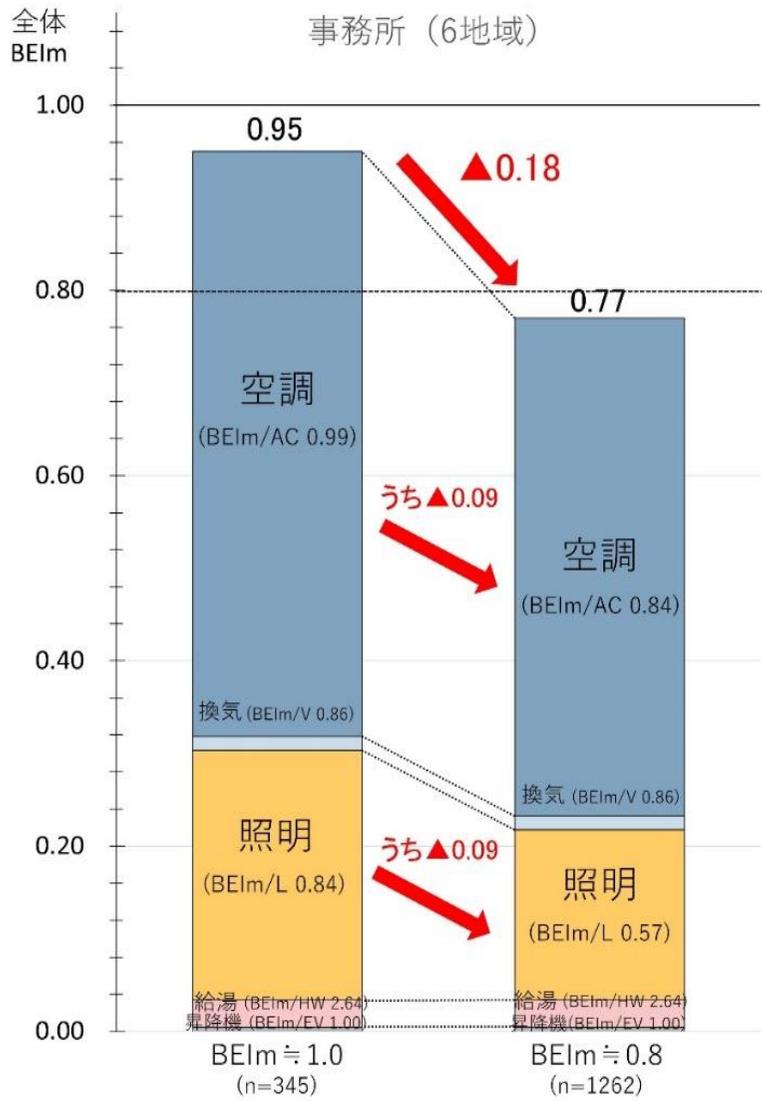
○ 次ページ以降の仕様検討においては、安全側の検証※とするため、外皮の仕様を現行基準レベルの仕様から変えずに設備の能力適正化・高効率化等の対策のみで基準適合できるかを確認する。

※実際の設計においては外皮の仕様もあわせて見直すことで、さらなるBEIの低減に寄与することが想定される。

分析④_設計仕様比較 事務所等(6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.8を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限定する趣旨ではありません)。

- 事務所等(6地域)のBEImに与える影響が大きい設備は、空調と照明。
- 空調の定格熱源能力・効率、照明の消費電力に差異がある。



設計仕様		BEIm ≒ 1.0 (N=345件)
空調	熱源機種(冷房/暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)
	定格熱源能力	(冷房) 321 W/m ²
		(暖房) 359 W/m ²
	定格熱源効率	(冷房) 1.18
(暖房) 1.34		
照明	消費電力 (事務室)	12.2 W/m ²



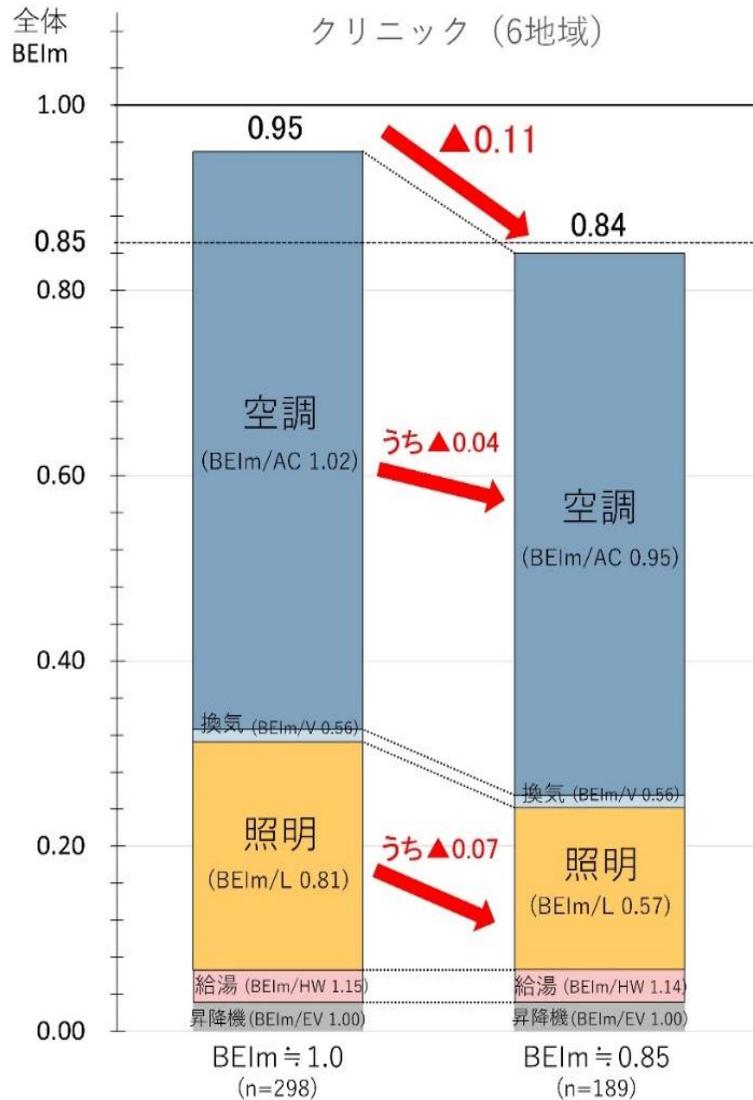
設計仕様		BEIm ≒ 0.8 (N=1262件)	
空調	熱源機種(冷房/暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房) 249 W/m ² (22%減)	サイズ DOWN
		(暖房) 280 W/m ² (22%減)	
	定格熱源効率	(冷房) 1.23 (4%増)	効率 UP
(暖房) 1.39 (3%増)			
照明	消費電力 (事務室)	7.9 W/m ² (35%減)	LED化 配置見直し

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEIm ≒ 1.0は0.95 ≤ BEIm ≤ 1.00、BEIm ≒ 0.8は0.75 ≤ BEIm ≤ 0.80

分析④_設計仕様比較 病院等(クリニック、6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限定する趣旨ではありません)。

- 病院等(クリニック、6地域)のBEIに与える影響が大きい設備は、空調、照明。
- 空調の定格熱源能力・効率、照明の消費電力に差異がある。



設計仕様			BEI ≒ 1.0 (n=298件)
空調	熱源機種(冷房、暖房)		パッケージエアコン(個別熱源)
	定格熱源能力	(冷房)	261W/m ²
		(暖房)	300W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.23
(暖房)		1.38	
照明	消費電力		(診察室) 9.3W/m ²
			(待合室) 10.0W/m ²



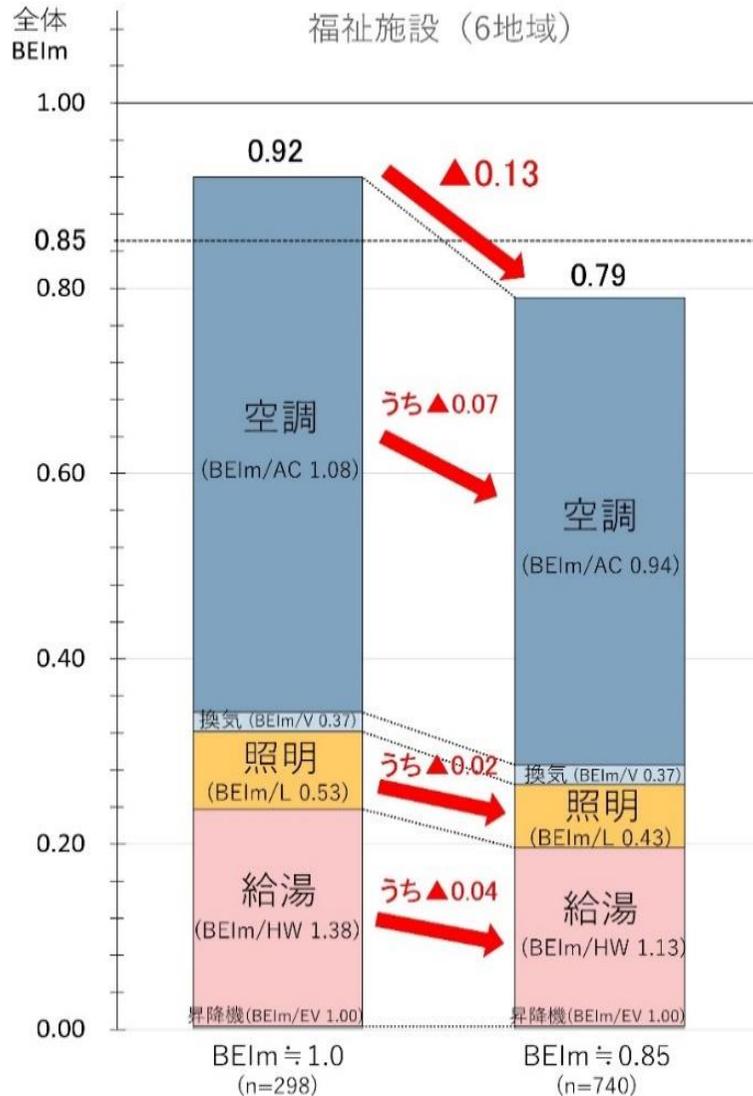
設計仕様			BEI ≒ 0.85 (n=189件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)		パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	227W/m ² (13%減)	サイズ DOWN
		(暖房)	262W/m ² (13%減)	
	定格熱源効率	(冷房)	1.30(6%増)	効率UP
(暖房)		1.46(6%増)		
照明	消費電力		(診察室) 7.4W/m ² (20%減)	LED化 配置見直し
			(待合室) 6.0W/m ² (40%減)	

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEI ≒ 1.0は0.95 ≤ BEI ≤ 1.00、BEI ≒ 0.85は0.80 ≤ BEI ≤ 0.85)

分析④ 設計仕様比較 病院等（福祉施設、6地域）の例）

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限る趣旨ではありません)。

- 病院等（福祉施設、6地域）のBEIに与える影響が大きい設備は、空調、照明、給湯。
- 空調の定格熱源能力・効率、照明の消費電力、給湯の熱源能力・配管保温仕様に差異がある。



設計仕様		BEI ≒ 1.0 (n=298件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(空冷式)	
	定格熱源能力	(冷房)	251W/m ²
		(暖房)	294W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.23
	(暖房)	1.41	
照明	消費電力	(個室)	4.2W/m ²
		(診察室)	7.2W/m ²
		(ロビー)	6.1W/m ²
給湯	熱源効率	(手洗い)	0.58
		(浴室)	0.83
		(厨房)	0.79
	配管保温仕様	(厨房)	なし(裸管)

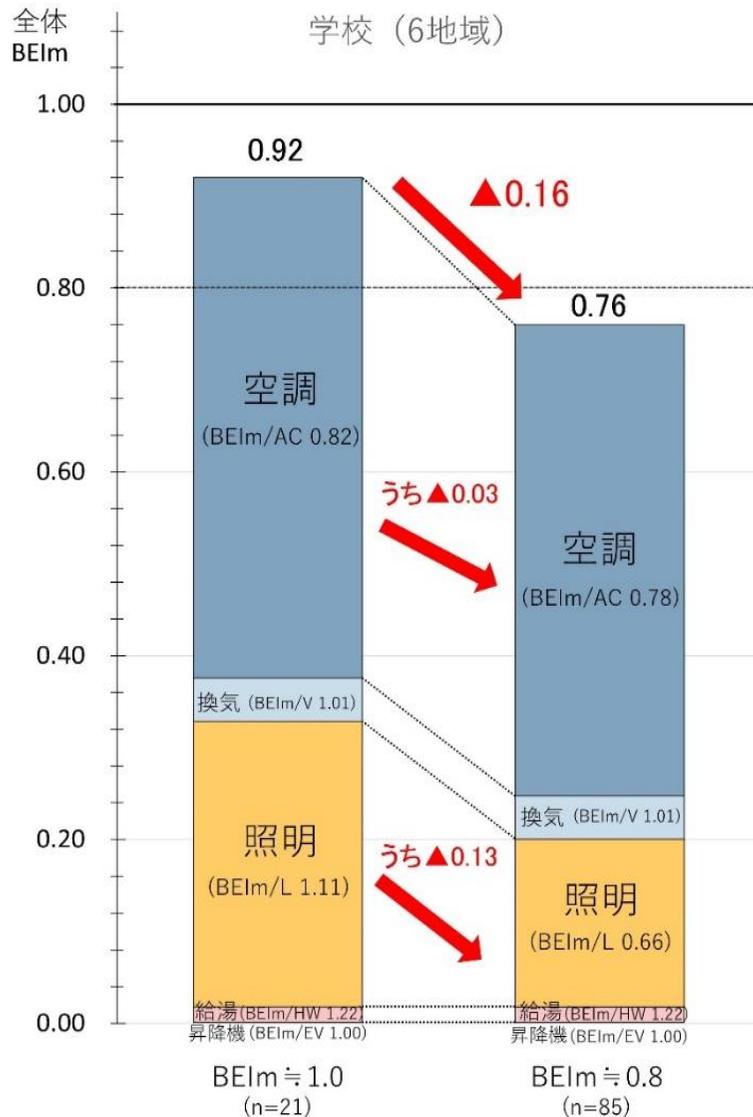
設計仕様		BEI ≒ 0.85 (n=740件)		
空調	熱源機種(冷房、暖房)	ルームエアコン		機種変更
	定格熱源能力	(冷房)	209W/m ² (17%減)	サイズDOWN
		(暖房)	241W/m ² (18%減)	
	定格熱源効率	(冷房)	1.31 (7%増)	効率UP
	(暖房)	1.51 (7%増)		
照明	消費電力	(個室)	3.5W/m ² (17%減)	LED化 配置見直し
		(診察室)	6.0W/m ² (17%減)	
		(ロビー)	4.6W/m ² (25%減)	
給湯	熱源効率	(手洗い)	0.62 (7%増)	効率UP
		(浴室)	0.89 (7%増)	
		(厨房)	0.89 (11%増)	
	配管保温仕様	(厨房)	仕様2または3	

※ H30～R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEI ≒ 1.0は0.95 ≤ BEI ≤ 1.00、BEI ≒ 0.85は0.80 ≤ BEI ≤ 0.85)

分析④_設計仕様比較 学校等(学校、6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限る趣旨ではありません)。

- 学校等(学校、6地域)のBEI_mに与える影響が大きい設備は、空調、照明。
- 空調の定格熱源能力・効率、照明の消費電力に差異がある。



設計仕様		BEI _m ≒ 1.0 (n=21件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	282W/m ²
		(暖房)	314W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.13
(暖房)		1.28	
照明	消費電力	(教室)	11.2W/m ²
		(職員室)	10.0W/m ²
		(ロビー)	14.1W/m ²

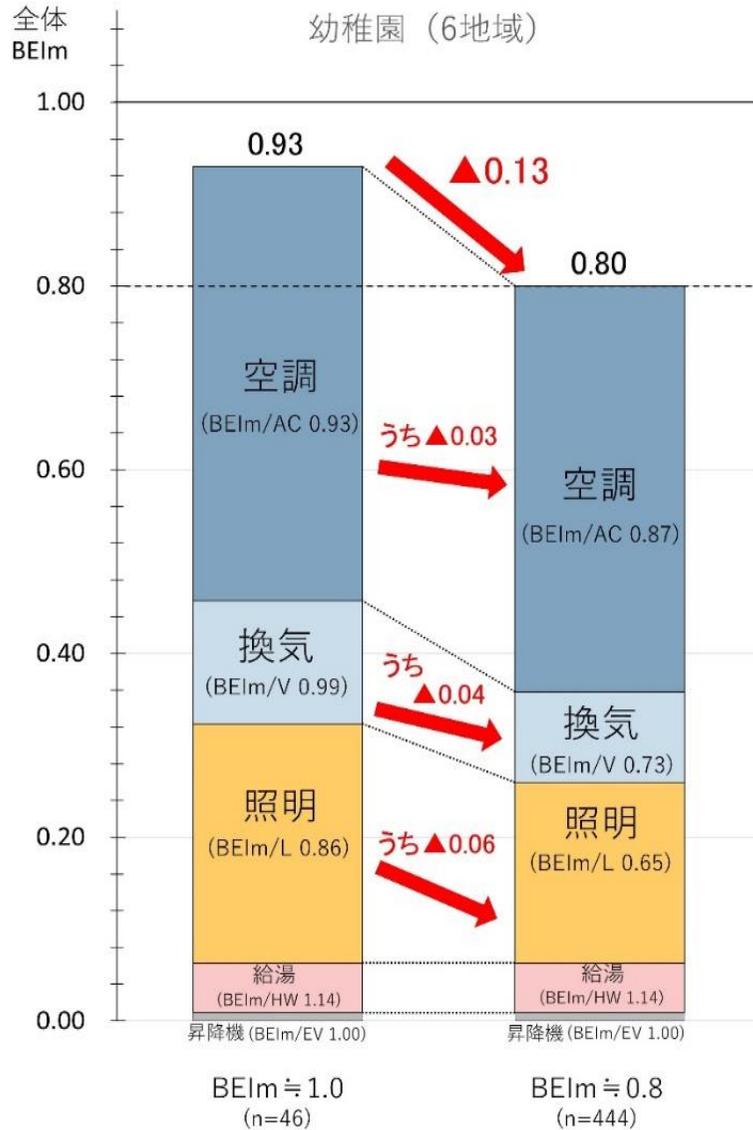
設計仕様		BEI _m ≒ 0.8 (n=85件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	256W/m ² (9%減) サイズ DOWN
		(暖房)	286W/m ² (9%減)
	定格熱源効率	(冷房)	1.16 (3%増) 効率UP
(暖房)		1.33 (4%増)	
照明	消費電力	(教室)	7.0W/m ² (38%減) LED化 配置見直し
		(職員室)	7.2W/m ² (14%減)
		(ロビー)	4.4W/m ² (69%減)

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEI_m ≒ 1.0は0.95 ≤ BEI_m ≤ 1.00、BEI_m ≒ 0.8は0.75 ≤ BEI_m ≤ 0.80

分析④_設計仕様比較 学校等(幼稚園、6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限る趣旨ではありません)。

- 学校等(幼稚園、6地域)のBEIに与える影響が大きい設備は、空調、換気、照明。
- 空調の定格熱源能力・効率、換気の照明の消費電力に差異がある。



設計仕様		BEI ≒ 1.0 (n=46件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	305W/m ²
		(暖房)	360W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.22
(暖房)		1.34	
換気	電動機出力 (厨房)	0.4W/(m ³ /h)	
照明	消費電力	(教室)	9.1W/m ²
		(職員室)	8.6W/m ²
		(ロビー)	11.6W/m ²

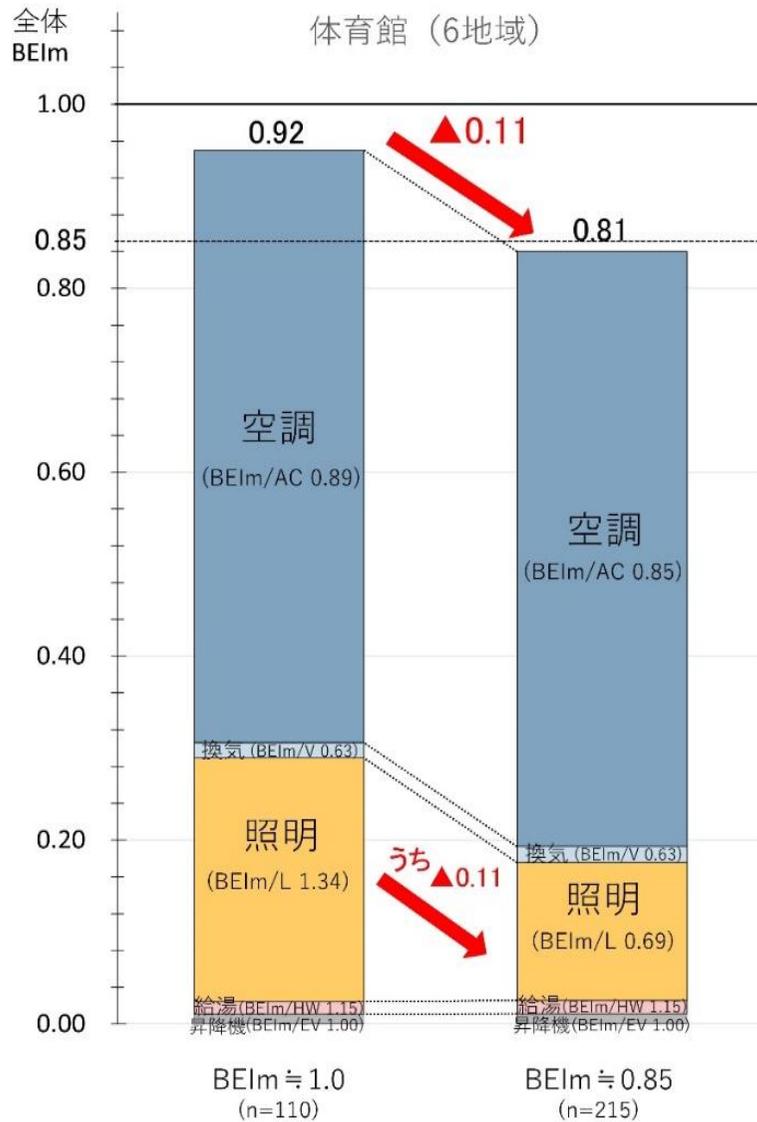
設計仕様		BEI ≒ 0.8 (n=444件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	250W/m ² (18%減)
		(暖房)	312W/m ² (13%減)
	定格熱源効率	(冷房)	1.23 (1%増)
(暖房)		1.35 (1%増)	
換気	電動機出力 (厨房)	0.3W/(m ³ /h) (25%減)	
照明	消費電力	(教室)	7.4W/m ² (19%減)
		(職員室)	7.8W/m ² (9%減)
		(ロビー)	6.5W/m ² (44%減)

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEI ≒ 1.0は0.95 ≤ BEI ≤ 1.00、BEI ≒ 0.8は0.75 ≤ BEI ≤ 0.80

分析④_設計仕様比較 集会所等(体育館、6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限定する趣旨ではありません)。

- 集会所等(体育館、6地域)のBEIに与える影響が大きい設備は、空調と照明。
- 空調の定格熱源能力・効率、照明の消費電力に差異がある。



設計仕様		BEI ≈ 1.0 (n=110件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	282W/m ²
		(暖房)	332W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.19
(暖房)		1.33	
照明	消費電力	(アリーナ)	11.4W/m ²
		(ロビー)	9.6W/m ²



設計仕様		BEI ≈ 0.85 (n=215件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	217W/m ² (23%減)
		(暖房)	249W/m ² (25%減)
	定格熱源効率	(冷房)	1.23 (3%増)
(暖房)		1.41 (6%増)	
照明	消費電力	(アリーナ)	5.9W/m ² (48%減)
		(ロビー)	6.0W/m ² (38%減)

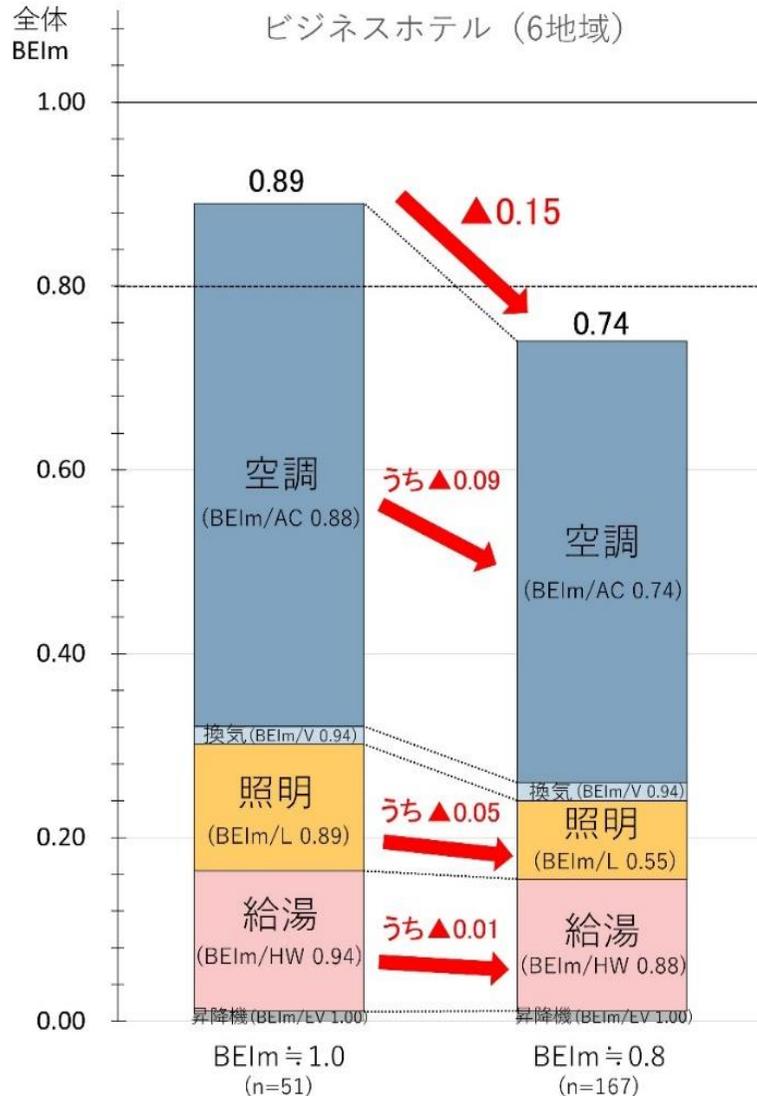
- サイズ DOWN
- 効率 UP
- LED化 配置見直し

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEI ≈ 1.0は0.95 ≤ BEI ≤ 1.00、BEI ≈ 0.8は0.75 ≤ BEI ≤ 0.80

分析④_設計仕様比較 ホテル等 (ビジネスホテル、6地域) の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限る趣旨ではありません)。

- ホテル等(ビジネスホテル、6地域)のBEIに与える影響が大きい設備は、空調、照明、給湯。
- 空調の熱源機種・定格熱源能力・効率、照明の消費電力、給湯の熱源効率に差異がある。



設計仕様		BEI ≒ 1.0 (n=51件)	
空調	熱源機種 (冷房、暖房)	パッケージエアコン (個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房) 281W/m ² (暖房) 342W/m ²	
	定格熱源効率	(冷房) 1.22 (暖房) 1.30	
照明	定消費電力	(客室) 7.2W/m ² (ロビー) 10.8W/m ² (レストラン) 9.0W/m ²	
		熱源効率	(手洗い) 0.75 (浴室) 0.86 (厨房) 0.78

設計仕様		BEI ≒ 0.8 (n=167件)	変更点	
空調	熱源機種 (冷房、暖房)	ルームエアコン	機種変更	
	定格熱源能力	(冷房) 208W/m ² (26%減) (暖房) 243W/m ² (29%減)	サイズ DOWN	
	定格熱源効率	(冷房) 1.24 (2%増) (暖房) 1.42 (9%増)	効率UP	
照明	消費電力	(客室) 4.2W/m ² (42%減) (ロビー) 5.8W/m ² (46%減) (レストラン) 7.3W/m ² (19%減)	LED化 配置見直し	
		熱源効率	(手洗い) 0.84 (11%増) (浴室) 0.90 (4%増) (厨房) 0.86 (10%増)	効率UP

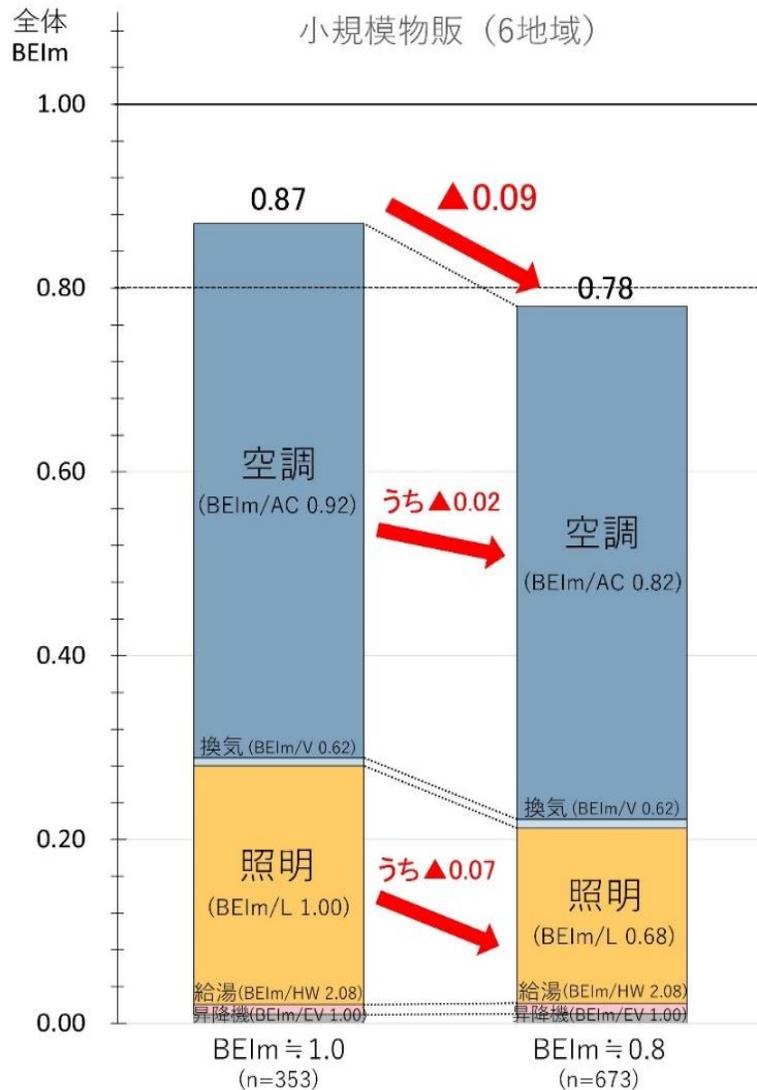
※ H30～R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。

BEI ≒ 1.0は0.95 ≤ BEI ≤ 1.00、BEI ≒ 0.8は0.75 ≤ BEI ≤ 0.80

分析④_設計仕様比較 百貨店等(小規模物販、6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限定する趣旨ではありません)。

- 百貨店等(小規模物販、6地域)のBEImに与える影響が大きい設備は、空調、照明。
- 空調の定格熱源能力・効率、照明の消費電力に差異がある。



設計仕様		BEIm ≒ 1.0 (n=25件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	296W/m ²
		(暖房)	333W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.15
(暖房)		1.36	
照明	消費電力	(売場)	16.2W/m ²



設計仕様		BEIm ≒ 0.8 (n=300件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	172W/m ² (42%減)
		(暖房)	194W/m ² (42%減)
	定格熱源効率	(冷房)	1.17 (2%増)
(暖房)		1.45 (7%増)	
照明	消費電力	(売場)	10.7W/m ² (39%減)

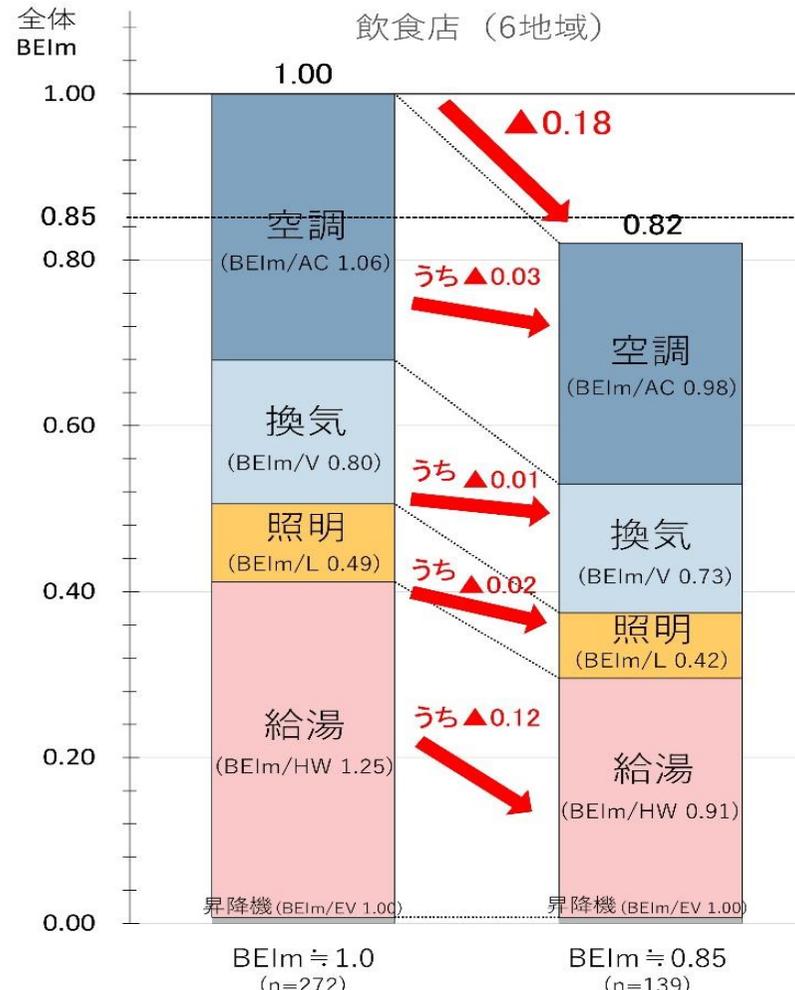
- サイズ DOWN
- 効率UP
- LED化 配置見直し

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEIm ≒ 1.0は0.95 ≤ BEIm ≤ 1.00、BEIm ≒ 0.8は0.75 ≤ BEIm ≤ 0.80

分析④ 設計仕様比較 飲食店等(6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.85を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限定する趣旨ではありません)。

- 飲食店等(6地域)のBEImに与える影響が大きい設備は、空調、換気、照明、給湯。
- 空調の定格熱源能力・効率、換気の方式・電動機出力、照明の消費電力及び給湯の熱源効率・配管保温仕様の導入に差異がある。



設計仕様		BEIm ≒ 1.0 (n=272件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	405W/m ²
		(暖房)	453W/m ²
	定格熱源効率	(冷房)	1.14
(暖房)		1.41	
換気	電動機出力	(機械室)	0.32W/(m ³ /h)
		(厨房)	0.33W/(m ³ /h)
照明	消費電力	(客席)	8.3W/m ²
給湯	熱源効率	(手洗い)	0.59
		(厨房)	0.84
	配管保温仕様	(浴室)・(厨房)	無(裸管)

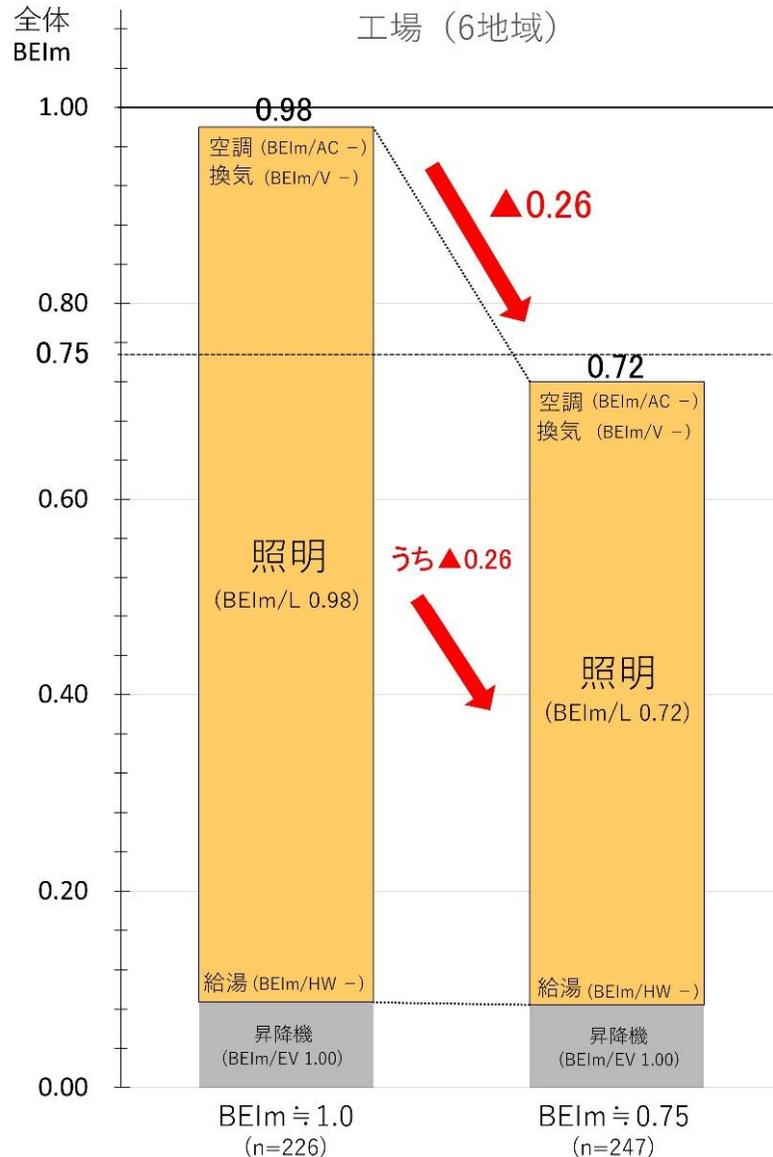
設計仕様		BEIm ≒ 0.85 (n=139件)	
空調	熱源機種(冷房、暖房)	パッケージエアコン(個別熱源)	
	定格熱源能力	(冷房)	360W/m ² (11%減) サイズDOWN
		(暖房)	403W/m ² (11%減) サイズDOWN
	定格熱源効率	(冷房)	1.19 (1%増) 効率UP
(暖房)		1.43 (1%増) 効率UP	
換気	電動機出力	(機械室)	0.18W/(m ³ /h) (44%減) サイズDOWN
		(厨房)	0.30W/(m ³ /h) (9%減) サイズDOWN
照明	消費電力	(客席)	6.8W/m ² (18%減) LED化 配置見直し
給湯	熱源効率	(手洗い)	0.60 (2%増) 効率UP
		(厨房)	0.85 (1%増) 効率UP
配管保温仕様	(浴室)・(厨房)	保温仕様2又は3 保温施工	

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEIm ≒ 1.0は0.95 ≤ BEIm ≤ 1.00、BEIm ≒ 0.85は0.80 ≤ BEIm ≤ 0.85)

分析④ 設計仕様比較 工場等(6地域)の例

※本スライド中のBEI=0.75を達成する仕様例は、過去の適判等の入力データから達成事例の平均的仕様を基に一例を示したものです(達成方法を特定の仕様に限定する趣旨ではありません)。

- 工場等(6地域)のBEImに与える影響が大きい設備は、照明。
- 照明の消費電力に差異がある。



設計仕様		BEIm ≐ 1.0 (n=226件)	
照明	消費電力	(倉庫)	5.9W/m ²
		(駐車場)	4.1W/m ²



設計仕様		BEIm ≐ 0.75 (n=247件)	
照明	消費電力	(倉庫)	4.1W/m ² (31%減)
		(駐車場)	2.7W/m ² (34%減)

LED化
配置見直し

※ H30~R4年度の省エネ性能確保計画の提出(省エネ適判及び届出)実績による(全地域、新築、300㎡以上2,000㎡未満、単一用途、評価対象がEVのみのものを除く)の設計仕様を分析。
BEIm ≐ 1.0は0.95 ≤ BEIm ≤ 1.00、BEIm ≐ 0.75は0.70 ≤ BEIm ≤ 0.75)

分析⑤_設備の製品・仕様についての実務者へのヒアリング

○設備設計実務者の関係団体に対して、引上げ後の基準レベルを達成するために見直す設備の製品・仕様が現実的なものとなっているかどうかについてヒアリングを実施。

※ヒアリング先：一般社団法人 日本設備設計事務所協会連合会、一般社団法人 建築設備技術者協会

○ヒアリングの結果、「(見直し基準案に適合するような)対象製品は市場にあるため、**選択可能**」「新築工事については、設備の設置場所や維持管理・更新の観点からの特段の**支障はない**」旨の回答が得られた。。

○一方で、性能の高い設備機器等を選択することに伴うコスト増や、設計条件の見直しが生じる可能性を踏まえ、**施主・発注者の理解を得られることが前提・重要**という意見があった。

関係団体へのヒアリング内容(抜粋・要約)

Q1:	見直し基準(案)に適合する仕様に対応する設備等の製品はあるか。
A1:	<ul style="list-style-type: none"> ・各設備とも、近年はメーカー側もCOPを重視しており、対象製品はあるため、問題はない。ただし、熱源をガスとする設備機種は、制作するメーカー数が減少している傾向にある。 ・設備の製品・仕様としては対象製品があり選択できるが、高効率機器を選定することでコスト増となる場合には施主の理解が必要となるだろう。 ・設備方式や容量設定については、<u>設計の結果として求められるものであり、空調負荷計算などを行わないかぎり、決定できない</u>。空調負荷に関係する内部発熱に関しては顧客との合意により決まり、達成すべきBEIを必須条件として設計を行い、必要に応じて設計条件(コンセント容量、導入外気量、要求照度など)の緩和について施主と交渉することになる。
Q2:	製品・仕様導入にあたり支障・制約はあるか。(設置場所の確保、維持管理・更新のしやすさ等。)
A2:	<ul style="list-style-type: none"> ・新築工事については、設備の設置場所や維持管理・更新の方法も含めて検討を行うため、特段支障はないと思われる。 ・増改築工事については、<u>既存建築物のインフラ接続や設備スペース計画の状況に左右される</u>中で更新方法等も含めた検討を要するなど制約が多く、対応が容易ではない。

- 中規模非住宅の省エネ基準の引上げ案として、基準の分かりやすさを確保する観点から、先行する大規模の基準と同一の水準設定とすることについて、現状の適合状況や設計仕様の見直しの実現性について検証を行った結果、
 - ・大規模非住宅の基準引上げの審議の際と概ね同様の適合状況となっていること。
 - ・各用途において、設備機器側の対応により達成可能な水準となっていること(外皮の工夫によりさらなる向上の余地)を踏まえ、**大規模と同一の水準(下図の赤枠内)に設定**する。
- 実務者へのヒアリングにおける「コスト増や設計条件の見直し等に関しては施主等の理解が必要」という点については、引上げ基準の施行(2026年4月予定)までの間、建物所有者の関係団体等を通じて周知を図る。
- これまでに実装した評価方法の合理化等(モデル建物法の入力項目の追加について、次ページ参照)について、今後講習会等を通じて周知を行い、設計者等における省エネ性能の評価への習熟度向上を図る。

【現行(2024年度時点)の水準】

【2026年度の水準
(中規模以上)(案)】

【遅くとも2030年度までに目指す水準】
(エネルギー基本計画等)

規模	用途	一次エネ (BEI) の水準
大規模 (2,000㎡以上)	工場等	0.75 ^{※1}
	事務所等、学校等、 ホテル等、百貨店等	0.80 ^{※1}
	病院等、集会所等、 飲食店等	0.85 ^{※1}
中規模 (300㎡以上 2,000㎡未満)	全用途	1.00 ^{※1}

用途	一次エネ (BEI) の水準
工場等	0.75 ^{※1}
事務所等、学校等、 ホテル等、百貨店等	0.80 ^{※1}
病院等、集会所等、 飲食店等	0.85 ^{※1}

用途	一次エネ (BEI) の水準
事務所等、学校等、工場等	0.60 ^{※2}
病院等、集会所等、ホテル等、 百貨店等、飲食店等	0.70 ^{※2}

※1 太陽光発電設備及びコージェネレーション設備の発電量のうち自家消費分を含む。

※2 コージェネレーション設備の発電量のうち自家消費分を含む。

【参考】モデル建物法の入力項目の追加について

○ モデル建物法では入力等に係る負担軽減のため、標準入力法に比べて項目を絞っている※ところ、省エネ基準の段階的な引上げに向けて、従来標準入力法でのみ入力可能であった一部項目について、**モデル建物法でも入力できるようWEBプログラムへの実装を完了**（本対応方針については、前回合同会議（R5.5.24）で報告）。

※入力しない場合、既定値を用いて評価。

表 モデル建物法に追加した内容・時期

	設備	追加した内容	WEBプログラム実装時期
①	空調	空調機ファン変風量制御の最小風量比の入力を可能とする	R5.10
②	空調	全熱交換器の平均熱交換効率を数値での直接入力を可能とする	R5.10
③	空調	空調二次ポンプ変流量制御の最小流量比の入力を可能とする	R5.10
④	換気	換気ファンのインバータ制御の有無を選択可能とする	R5.4
⑤	照明	室指数(天井高のみ)の入力を可能とする	R5.10
⑥	照明	詳細な省エネ制御※の選択を可能とする ※在室検知、明るさ検知、タイムスケジュール、初期照度補正	R5.10
⑦	給湯	異なる複数の配管保温仕様を選択した場合の仕様決定ルールの見直し	R5.4
⑧	太陽光発電	太陽光パネル設置面数について5面以上の入力を可能とする	R5.10